

城ヶ島沖浮魚礁

神奈川県では、城ヶ島沖に観測設備を備えた浮魚礁を設置しています。

ここでは、この城ヶ島沖浮魚礁のご紹介をいたします。

浮魚礁設置の目的 ～ 急潮被害防止と漁場造成 ～

城ヶ島沖浮魚礁設置の目的は主に2つ

① 相模湾で発生する「急潮」から定置網を守る

相模湾内には、しばしば「急潮」と呼ばれる強い流れが発生します。この急潮から定置網を守るために、浮魚礁では、水温、流向・流速などの観測を行っています。

② カツオ・マグロなど回遊性魚類の漁場として

カツオ・マグロなどの回遊魚は、流木や流れ藻などに集まる習性があります。この習性を利用し、浮魚礁に魚を集めることで、漁場として利用されています。



浮魚礁(上)と設置位置(左)

城ヶ島南西沖約8km・水深約800mのところに設置されています。



浮魚礁に集まる漁船・遊漁船
主に初夏～秋に浮魚礁に集まる魚(カツオ・マグロ等)をねらって県内各地から漁船や遊漁船が集まります。



急潮被害の防止について

城ヶ島沖浮魚礁は、水温、流向・流速等を観測し、1時間毎に水産技術センターに送ってきます。

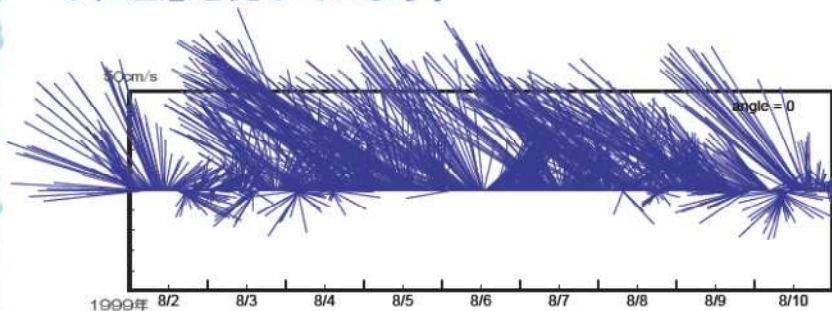
水産技術センターではデータを24時間監視し、急潮発生のおそれがある時は、FAX等で漁業者に通知し、注意を促しています。

急潮とは・・・



急潮は、相模湾内で発生する反時計回り(例外もあります)の強い流れのことで、黒潮流路の変動や低気圧(台風)の通過等により引き起こされます。

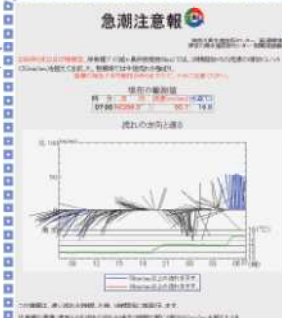
急潮は、相模湾沿岸に敷設されている定置網に甚大な被害をもたらすことがあり、定置網を急潮から守ることが水産技術センターの大きな役割のひとつとなっています。



浮魚礁で観測された強流の例

1999年8月2～10日に城ヶ島沖浮魚礁で観測された北～北西向きの強流です。この時の最大流速は、毎秒約143cm(2.8ノット)でした。この強流は黒潮流路の変動に伴って、大島東水道から沖合水が流入したために引き起こされました。

急潮注意報



急潮情報

浮魚礁で強流が観測された場合、流れの強さに応じて「急潮警報」「急潮注意報」を発表し、漁業者に注意を呼びかけています。